

やさしい日本語

外国人の人権尊重の第一歩は、「やさしい日本語」で話しかけることから!



法務省の「外国人の人権を尊重しましょう」というポスターには、「理解し合うことが大切です」と大きな字で書かれています。しかし、いくらその気持ちがあっても「言葉の通じない外国人とどうすれば理解し合えるのか」というのが、素朴な疑問ではないでしょうか。

そこで活用したいのが「やさしい日本語」です。「やさしい日本語」とは、外国人にもわかりやすいように配慮した日本語のことで、ちょっとしたコツを覚えれば誰でも使えるようになります。

「外国人は日本語ができない」というのは私たちの思い込みで、国立国語研究所の調査によると定住外国人が理解できる言語として「日本語」は62.6%、「英語」は44%という結果が示されています。機械翻訳を使う場合でも、いったんわかりやすい日本語にしてから外国語に訳した方が意味の通る訳文になります。

2019年には改正入管・難民法が施行され、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。外国人と接する機会は今後益々増えていくでしょう。もし、身近なところで外国人に出会ったら、まずは「やさしい日本語」で自分から話しかけてみましょう。それこそが、外国人の人権尊重につながる具体的な行動の第一歩だと思います。

言い換え・書き換えの例

長い文は短く、漢語は和語にする

悪天候のため、JRは運休です。 → 今日は天気が悪いです。JRは止まっています。

擬音語・擬態語は使わない

お腹がペコペコです。 → お腹がすきました。

慣用語は普通の言い方にする

口にありますか? → 好きですか?/おいしいですか?

敬語やあいまいな表現は使わない

ちょっとわかりかねます。 → わかりません。



「やさしい日本語」についての詳しい情報は、島根県・しまね国際センターが作成した「やさしい日本語」の手引きをご覧ください。しまね国際センターホームページ (<https://www.sic-info.org>) にも掲載されています。

島根県 やさしい日本語

検索

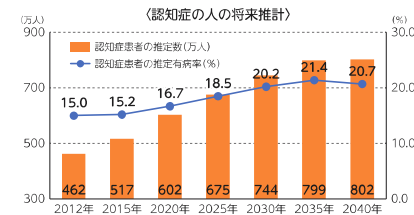
「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災を契機に、外国人に災害情報を「迅速に」「正確に」「簡潔に」伝えるため、弘前大学・社会言語学研究室により考え出されました。子ども、高齢者、障がい者の方などにとっても分かりやすいコミュニケーション手段の一つです。

「認知症」から始まる地域づくり

～誰もが安心して暮らしていくために～

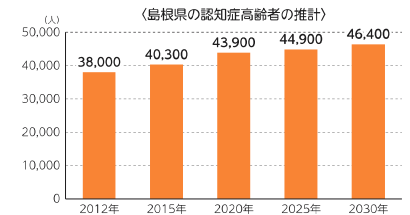
認知症とは?

認知症は脳の病気により発症するものです。いろいろな原因で脳の働きが悪くなり、記憶や理解・判断力などが低下し、日常生活を送る上での支障が、およそ6ヶ月以上継続している状態を言います。認知症になったからと言って急にすべてのことが出来なくなるわけではありません。原因となる病気によって症状は様々であり、また周囲の正しい理解と適切な支援により、その人らしく暮らしていくことが可能です。そのためにも早期診断と早期対応が大切となります。



認知症の現状

認知症は、加齢などに伴い誰でも発症する可能性があります。高齢化が進む中、日本の認知症高齢者数は2012(平成24)年に462万人と推計されています。2025年には、約700万人に増加することが見込まれており、これは65歳以上の5人に1人の割合です。また、島根県の認知症高齢者数は、2012(平成24)年の38,000人から2025年には44,900人に増加すると推計されています。



認知症は誰にとっても身近なものになっています。

認知症になってからも、できる限り住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らしていくことができるよう、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族とともに地域全体と一緒に取り組んでいくことが大切です。



あなたも認知症サポーターになりませんか?

オレンジリングがサポーターの目印!



認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、地域で認知症の人や家族を温かく見守り、自分のできる範囲で手助けをする人です。認知症サポーター養成講座を受講すれば、どなたでもなることができます。

- 講座は60～90分です。
 - 講師は市町村から派遣します。(無料)
 - 職場、学校、自治会など、どこでも開催できます。(おおむね5名以上の団体)
 - 児童・生徒のみなさんもサポーターになることができます。
- ※申し込みは最寄りの市町村までお願いします。



お問い合わせ先

島根県高齢者福祉課 地域包括ケア推進室
TEL 0852-22-6341

認知症の人への接し方

認知症という特別な人がいるわけではありません。その人が認知症という病気になっただけです。相手の立場に立って、さりげなく自然に接することが最も大切です。

接し方のポイント

3つの「ない」

- ① 驚かせない
- ② 急がせない
- ③ 自尊心を傷つけない

認知症カフェが広がっています

認知症の人やその家族、地域住民、医療・介護関係者など誰でも参加できる交流の場「認知症カフェ」。2018(平成30)年12月現在、県内には36か所の認知症カフェが開設され、近年広がりがつあります。気軽に集まって話したり、仲間づくりや情報交換をしたりしてみませんか? ※県内の認知症カフェの一覧を県ホームページに掲載しています。



島根県 認知症

検索